

能登半島地震特集

地域を守る！

▶被災者等の支援

災害時に支援する

001

専門技術を生かした
被災地ボランティア団体
「石狩思いやりの心届け隊」の活動

取組主体

石狩思いやりの心届け隊

会員数

75 人

想定災害

地震・水害
など

実施地域

北海道・
石川県など

公的支援では対応が困難な領域において、メンバーの専門技術を生かした被災地支援を実施している。2024 年 1 月に発生した能登半島地震では、水道管の復旧支援を実施し、被災地の復興に貢献した。

1 取組の概要

- ・北海道石狩市のボランティア団体である「石狩思いやりの心届け隊」には、石狩市在住のメンバー約 75 人が登録している。東日本大震災や北海道胆振東部地震、能登半島地震などの災害救援活動に貢献しているほか、震災で中断された農作業の手伝い、倒壊した家屋からの貴重品探し、被災者の心のケアなど、公的サービスでは困難な支援や同隊メンバーの専門技術を生かした支援活動を行っている。
- ・2024 年 1 月に発生した能登半島地震では、宅内配管の復旧や、沢から水を引く仮設水道の設置、シャワールームトレーラーの貸出しなど、水に関する支援を中心に実施した。



宅内配管復旧工事の様子



沢から水を引いた仮設水



シャワールームトレーラー

- ・平時には、石狩市内のイベントにてブースを出展し、市民へ向けて、被災地の状況や同隊の活動に関する報告を行っている。

2 取組のきっかけと想い

- ・2011 年の東日本大震災時に、当時の石狩市商工会議所青年部メンバーが、「被災地復興に向けて自分たちも何かできないか」と考え、緊急援助の活動を始めた。その時は、救援物資を集めようと石狩市を中心に呼びかけたところ、子どもを含む約 400 人から 4 万点ほどの物資が集まった。しかし、現地の行政窓口が、救援物資の受入態勢が整わないことを理由に物資の募集をすぐに中止したため、集まった全ての物資を送り届けることはできなかった。
- ・「物資を提供してくれた子どもたちや地域住民の想いを無駄にしてはいけない」という強い気持ちから、青年部メンバーは、現地の行政では受入れができなかった物資を、直接現地へ持っていくことを決意した。さらに、現地へ行くのであれば、その機会を活用して炊き出しなどの支援も同時にできると考え、そのための資機材も車に積んで被災地へ向かった。こうした活動がきっかけで、青年部メンバーを中心に同隊が設立され、東日本大震災後も、様々な災害発生時に現地入りし、支援を行っている。

3 取組の特徴（差別化した点、地域特性等で工夫した点等）

専門技術を生かした支援活動

- ・同隊の中心メンバーは、代表者が水道設備工事の会社を営んでいるほか、水道設備関係者や建築士、電気工事士などの専門職が多く、被災して断水した地域への支援を行うことができる。

国土強靱化

- ・能登半島地震では、自治体の水道管から各家庭につながる宅内配管の復旧が遅れていることに気付き、指定業者でなくともできる支援を模索し、地元の指定業者と連携して、外部の水道業者が指定業者の下請作業員として働く方法を考案した。その結果、延べ 10 日間で 30 件の宅内配管の修繕を行うことができた。また、沢から水を引いて仮設水道を設置するなど、当座をしのぐための応急措置も実施し、指定業者でなくとも可能な支援を積極的に行い、被災地のニーズに応えた。

被災者のニーズに応じた柔軟な支援

- ・現地の女性からの声を受け、被災地である石川県鳳珠郡能登町の避難所に女性専用のシャワールームトレーラーを持ち込み、6 か月間貸し出し、女性が安心して利用できる入浴環境を提供した。これは同隊の代表者が経営する会社が所有する物で、音楽フェスやキャンプ場で使用される移動式のシャワールームである。車内には3 室のシャワールームがあり、個室内は脱衣所とシャワースペースに分かれており、人目を気にせず着替えられるよう配慮されている。
- ・避難所生活を強いられる被災者は、プライベートな時間や場所を持ちづらく、心身への負担が大きい。そこで、シャワールームに関しては、被災者の心身のケアに配慮する観点から、使用時間の制限を設けずに運用した。

公的支援対象外の支援の実施

- ・2018 年に発生した北海道胆振東部地震では、発災直後に収穫期を迎えた農家において、混乱期の人手不足により農作業がストップしてしまっていた。そこで、公的支援活動とは別に、同隊が作業を手伝ってほしいと SNS で呼びかけたところ、北海道大学農学部 of 学生や看護師、海外で農業体験をしていた人たちが多く参加し、ジャガイモの掘り出し作業やカボチャの収穫作業、ビニールハウスや炭窯の修復作業など、きめ細かい支援活動を行った。これにより、農家の収入減を防ぐことに貢献した。
- ・また、地震で土砂に埋もれた貴重品や遺品を、重機を使って掘り出す支援も実施した。被災した家屋は公費で解体されるが、倒壊した家屋から家財を取り出す作業は公的支援の対象外である。このような活動は、公的支援ではカバーしきれないが、被災者にとっては重要な活動であり、同隊では住民に寄り添った支援の一環として積極的に提供している。

4 取組の効果

周囲の声

- ・「水が出ない中、シャワーだけでも使えるのはとても助かる。お湯も温かいのありがたい」（シャワールームトレーラー利用者）
- ・「シャワールームは個人のプライバシーが守られる空間であり、シャワーだけでなく着替えやお化粧品にも安心して利用することができた」（シャワールームトレーラー利用者）

担当者の声

- ・発災時の初動においては、公的支援に優先順位があるため、被災住民に寄り添うきめ細かい対応は、ボランティアだからこそ実現できる支援だと考えています。今後も、他地域や企業との連携を強化し、被災地や暮らしの再建に苦しむ方々へ必要なサポートを届け続けること、そして、社会全体で支え合いながら住民にとって頼りになる存在であり続けることが、私たちの変わらぬ目標です。さらに、技術を活用した新たなボランティアの形を追求し、一層充実した支援活動を展開できるよう尽力してまいります。

問合せ先	動画	サイト URL
石狩思いやりの心届け隊 電話番号：0133-74-9110 FAX：0133-74-9713 E-Mail：ishikari@cocoa.ocn.ne.jp URL：https://www.facebook.com/omoiyarinokokoro	—	